

謹賀新年



「美ら海の防人」
海上自衛隊 第5航空群



新年のご挨拶

第5航空群司令 平木 拓宏
海将補

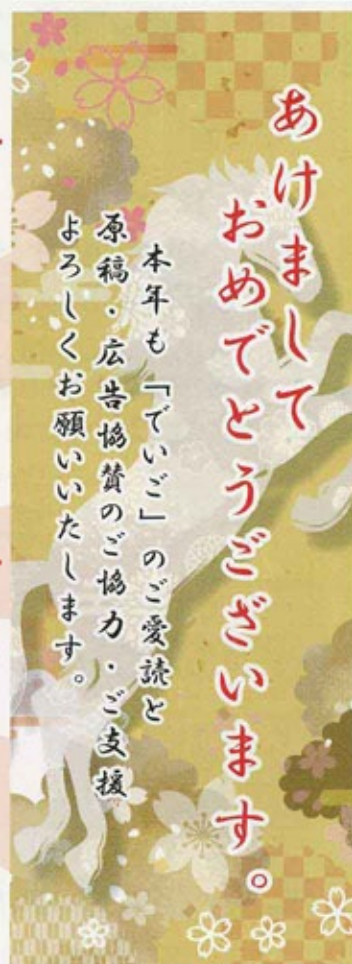
はいさいぐすーよいい
そーぐわちでーびる
沖縄二火会をはじめ各自衛隊協力団体の皆様、第5航空群隊員及びご家族の皆様、そして「でいご」をご覧の皆様、明けましておめでとうございませう。皆様と共に、新春を穏やかに迎えられることを心から嬉しく思っております。旧年中、皆様におかれましては、防衛意識の普及・高揚活動にご尽力いただくとともに、我々の任務はもとより、各種活動や行事等に対して、深いご理解と温かいご支援を賜り、第5航空群を代表して厚く御礼申し上げます。昨年、創立53周年を迎えた第5航空群は、平素からの継続的な警戒監視・情報収集といった業務に加え、5月末には通算22回目となるソマリア沖アデン湾における海賊対処行動を終えた、第56派遣海賊対処行動航空隊が任務を達成し無事帰国しました。

地域交流としましては、首里城復興祭「琉球王朝絵巻行列」への参加、沖縄県内(那覇市、石垣市)の児童施設や小学校への雪のプレゼント、平和祈念公園や海軍壕公園における清掃活動や那覇大綱挽まつりの支援等に加えて、数年ぶりに那覇ハーリーへ参加し皆様との交流を深めることができました。創立53周年記念行事は、諸般の事情により実施できませんでしたが、本年4月には、創立54周年記念行事を実施いたします。沖縄二火会をはじめとする関係各位の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。さて、現下の国際社会は、戦後最大の試練の時を迎えており、世界平和の既存の秩序は深刻な挑戦を受け、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後最も厳しく複雑なものと評価されています。こうした情勢下、我々としても「精強・即応」の真価が今ほど問われ

ている時代はないと考えています。このため、第5航空群では、皆様の安全・安心を護るため、自らの職務に誇りを持ち、一致団結して、皆様の負託に応えていけるよう、任務に邁進していく所存です。あわせて、「地域とともにある部隊」として、地元・周辺自治体との相互支援、連携強化に努めてまいります。第5航空群が責務を完遂していくためには、隊員のみならず、国民の皆様をはじめとする国民の皆様のご理解とご支援が必要不可欠であります。皆様におかれましては、本年も変わらぬご理解及びご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びとありますが、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



発行：沖縄二火会
(海上自衛隊第5航空群支援団体)
印刷：新栄印刷





年頭のご挨拶

沖縄二火会 会長 佐久本 武

海上自衛隊第5航空群の隊員及びご家族の皆様、並びに本紙「でいご」をご愛読戴いている皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様とともに、輝かしい令和八年の新春を健康に迎えられましたことを謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、我が国初の女性元首による内閣が誕生し、新内閣における防衛大臣は小泉進次郎氏、副大臣には宮崎政久氏が就任しました。高市首相の台湾有事に関する発言により国内外で過剰なまでの反応があります。県選出の衆議院議員である宮崎防衛副大臣には、尖閣諸島をはじめとする東シナ海の現状をしっかりと、また正しく中央に伝えて戴き、在沖陸・海・空自衛隊の充実等、沖縄県の安全・安心を保つために努めて戴くよう期待する次第です。

また、駐日アメリカ大使が高市首相を支持し、尖閣諸島が日本の防衛の範囲である事を明言したことにより、在沖米軍と自衛隊のパートナーシップがさらに深まったものと確信しております。

いまだ終結をみないウクライナやパレスチナ・ガザ地区の報道は、あらためて戦争の悲惨さを知らされる

ものであり、力による現状変更を望む国から領土を守り、国民・県民を保護する為の抑止力の重要性を強く認識することとなりました。

我々沖縄二火会が支援する第5航空群においては群司令平木海将補指揮の下、東シナ海の哨戒任務に加え、遠くソマリア沖の海賊対処行動等を目的とした航空隊派遣を継続する等の任務に邁進されています。

第5航空群の各級指揮官及び隊員の皆様はさらに厳しい任務遂行が求められるものと推察致しますが、私も沖縄二火会会員は、隊員の皆様が、今後とも我が国の防衛任務に邁進されますよう心より敬意を込めてお祈り申し上げますとともに、ご家族の皆様が心穏やかな生活が出来ますようご祈念申し上げます。

結びに第5航空群の隊員及びご家族の皆様、並びに沖縄二火会会員、さらに防衛関係各団体の会員及びご協力を戴いている個人の皆様方が、健やかで幸多き一年を迎えられますよう祈念して年頭のご挨拶とさせていただきます。





新年のご挨拶

沖縄県防衛協会 会長 國場 幸一

新年明けましておめでとうございます。

群司令平木海将補はじめ隊員の皆様には、ご家族共々希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

国際的な戦乱のうねりが続く中、わが国を取り巻く安全保障環境もまた厳しさを増してきております。昨年、中国が三隻目空母を就役させ、中台情勢の緊迫化がより増大するとともに、ロシア機の南下、北朝鮮の弾道ミサイルの発射等に対して、第5航空群「美ら海の防人」の皆様の極めて、高い使命感と強い責任感をもつての毅然とした警戒・監視、情報収集活動のみならず、沖縄県民にとり必要不可欠な災害派遣及び救難活動など崇高な任務遂行のために日夜身を賭してご尽力頂いていることに心より敬意を表します。

また、昨年もアフリカのソマリ・アデン湾へ「海賊対処行動航空隊」要員として派遣され、国際社会の平和維持の大任を見事に達成されました。

このような防衛活動に加え、平素より海上自衛隊艦艇の一般公開・哨戒機の体験搭乗や、戦没者慰霊祭の支援等数々の行事を通じて、海上自衛隊の活動に対する県民の皆様の理解の輪が広がっていることを実感しております。

私ども沖縄県防衛協会は、なお一層、海上自衛隊第5航空群の活動を県民に伝え、防衛思想の普及を図るとともに、防衛という崇高な使命に任ずる隊員のための活動を充実させて参ります。

新しい年におきまして、第5航空群が「美ら海の防人」として平木群司令を核心に国土防衛の任務のみならず世界平和のために大きく貢献されますことを祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。





新年のご挨拶

一般社団法人
沖縄海友会 会長 門馬 規雄

海上自衛隊第5航空群の隊員諸官及びご家族の皆様並びに本誌「でいご」愛読者の皆様、明けましておめでとうございます。

令和8年の輝かしい新年にあたり、皆様にはご家族共々希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

海上自衛隊第5航空群隊員の皆様には、年末年始も済々と継続して任務を遂行しておられることは勿論、昭和47年の臨時沖縄航空隊創設以来航空無事故を継続しておられることは、歴代指揮官以下隊員の皆様の極めて高い意識と技能の証であり、深く敬意を表します。

未だに世界各地では戦争・紛争が後を絶たず、我が国近傍においても平和と逆行するような言動を繰り返す国が見られます。我が国は、これらに対し関係諸国と連携し法の支配に基づく国際社会を推進すべく、第5航空群におかれましては、尖閣諸島を含む南西諸島周辺海域の警戒監視任務は勿論のこと、災害派遣などの国民の生命、財産を守る重要な任務に対応しておられます。

平成21年に開始されたソマリア沖アデン湾派遣海賊対処行動航空隊は、昨年第5航空群から22回目となる第56次隊を派遣し、国際社会の平和と安全の確保への貢献も継続されています。

昨年、第5航空群は創立53年を迎えられましたが、常統の本来業務に加えて、地域との

交流として音楽の夕べ、雪のプレゼント、戦没者献花などの他、各種ボランティア活動にも積極的に参加されるなど、隊員の皆様の意気込みは頼もしい限りです。

我々沖縄海友会は、沖縄の海軍出身者によって設立された、先の大戦で祖国防衛のために国に殉じられた海軍出身者の慰霊を目的とする法人団体ですが、設立時の会員は故人及び高齢となり現在は海上自衛隊のOB、OGが中心です。

毎年5月27日には、海軍戦没者慰霊之塔での慰霊祭を、第5航空群の皆様のご支援をいただいて海軍礼式に則って厳粛に催行できておりますことに、改めて深く感謝いたします。

また海軍壕の清掃、環境整備など第5航空群の皆様には、これまでのご支援、ご協力に深くお礼申し上げますとともに、これからも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

我々沖縄海友会は、今後とも沖縄県防衛協会、沖縄二火会、沖縄四樹の会等他の協力団体と連携し、自衛隊に対する県民の理解を深めると共に防衛思想の普及啓発に努め、第5航空群をご支援して参る所存です。

結びに、第5航空群隊員とそのご家族の皆様、防衛関係団体各位の皆様のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。





年頭の挨拶

沖縄県知事 玉城 徳一

はいさい、ぐすーよー、いいそーぐわちでーびる
新年、あけましておめでとうございます。

海上自衛隊第5航空群所属の隊員及び御家族の皆様におかれましては、輝かしい新春を御壮健にてお迎えのことと御慶び申し上げます。

隊員の皆様におかれましては、南北約400キロメートル、東西約1,000キロメートルにわたる広大な海域を有する島しょ県である本県において、24時間365日休むことなく、「美ら海の防人」として、警戒・監視任務に従事いただいております。

加えて、災害派遣、船舶や航空機の救難など県民生活の安全と安心の向上にも多大な貢献をされております。

隊員の皆様の崇高な使命感に心から敬意を表しますとともに、県民を代表して心より感謝申し上げます。

第5航空群の活動は県内にとどまらず、平成21年以降、ソマリア沖アデン湾における海賊対処行動及び情報収集活動にこれまで計22回にわたつ

て派遣され、国際社会における平和秩序の確保に貢献されております。

さらに、県内では、これまで29回にわたって実施されている子供たちへの「雪のプレゼント」や、地域の行事への参加、沖縄戦没者墓苑清掃をはじめとした様々なボランティア活動に積極的に取り組まれております。

隊員の皆さまが任務を遂行される真摯な姿と地域との交流を通じて、県民の理解と信頼が培われており、引き続き「美ら海の防人」として、その責務を全うされることを御期待申し上げます。

結びに、新しい年が平和で実り多い年となることを願いますとともに、海上自衛隊第5航空群所属の隊員及び御家族の皆様のご健勝と今後ますますの御活躍をお祈り申し上げます。新年の御挨拶といたします。

くとうしん、ゆたさるぐとう、うにげーさびら
今年もよろしく願っています。



年頭の挨拶

那覇市長 知念 寛

はいさいぐすーよーいいそーぐわちでーびる。

海上自衛隊第5航空群の隊員並びにご家族の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

隊員の皆様におかれましては、日々、国防という責任ある使命に向き合うとともに、ソマリア沖アデン湾における海賊行為に対処するため毎年、隊員を派遣されるなど、自らの危険を顧みず、国際社会の安定のためにご尽力されていることへ深く敬意を表します。

我が国周辺海域の厳しい安全保障環境の下、皆様が日々の警戒監視任務を通じて領海・領空の防衛に盤石な体制を敷いていただくことにより、私たちは安心して日々の生活を送ることができております。

また、船舶の搜索救難活動や災害派遣など、広大な海域を有する沖縄県及び我が国において、まさに「美ら海の防

人」として海の安全及び国民の生命・財産を守るという重要な任務を担っていただいていることに、心より感謝の念を表します。

地域の安全と平和のため尽力されている皆様の姿勢は、本市の推進する、安全・安心なまちづくりにおいても、幅広い活動に思いを致しつつ、私も本市の市政運営に全力を尽くしてまいりたいと考えております。

また、昨年は那覇ハーリーや那覇大綱挽、首里城復興祭・琉球王朝絵巻行列といった地域行事にも参加され、祭りを大いに盛り上げていただいたと伺っております。このような交流を通じて、地域に根差した部隊としての存在感を高められており、心温まる思いです。

今後ともこれまで築き上げられた信頼と絆がさらに深まっていくことをご期待申し上げます。



首里城復興祭「琉球王朝絵巻行列」に参加して

那覇航空基地隊 中鶴2尉



令和7年11月2日に那覇市国際通りで行われた、首里城復興祭の中の行事の一つである「琉球王朝絵巻行列」(首里城実行委員会主催)に三司官の札持ち(先導役)として、今回初めて

参加しました。

琉球王朝絵巻行列とは、琉球王国時代、中国皇帝の使者として訪れる「冊封使」を迎える儀式を再現した沖縄の伝統行事だと聞き、初めて勤務する沖縄で格式高い行事にぜひ参加したいと思い参加を決意しました。

当日は、初任海士(新入隊員)を中心に、海上自衛隊第5航空群の隊員約60名と陸・空自衛官、総勢100名が基地周辺住民への広報活動の一環として参加しました。

私が、札持ち(先導役)を担当した三司官とは、琉球王国時代の行政機関最高責任者の役職であり、今回は第5航空群司令の平木海将補が務められました。

私は、三司官役の平木群司令の前を先導する役柄だったので少々緊張しましたが、水色を基調とした琉球の伝統衣装を身にまとい、国際通りに集まった約2,7万人(主催者発表)の観客の前を肅々と練り歩きました。今回、初めて勤務する沖縄においてこのような伝統行事に参加し、沖縄の文化に触れることができ、また盛大な行事の一員を担えたことは大変良い体験となりました。

今後も、地域交流のイベントやボランティア活動に積極的に参加し、海上自衛隊のPRも含め、沖縄県民への交流を深めていきたいと思っています。



那覇航空基地 親和会クラブ活動紹介 バドミントン部

部長 第5整備補給隊 伊藤2尉

那覇航空基地には、仕事の合間の余暇の時間を利用して活動する運動部及び文化部があります。

このコーナーでは、那覇航空基地のクラブ活動について紹介していきます。

今回は、バドミントン部について紹介します。

海上自衛隊那覇航空基地バドミントン部は、海上自衛隊那覇航空基地及び海上自衛隊沖縄基地の部隊に在籍する隊員24名で構成され、年齢・階級に関係なく主にバドミントン技術の向上、隊員間の交流を目的として明るく、楽しく活動しています。

部員はほとんどが学生時代にバドミントン未経験者で、自衛隊入隊後にバドミントンを始めており、ここ那覇航空基地でバドミントンを始める隊員も多くいます。

そのため、経験年数によって技量の差がありますが、上級者が初心者から基礎から教えることで、技量の向上・関係の構築につながっています。

実際に初心者と上級者がダブルスでチームを組み、その際に感じた気付きを試合後に話し合

うことで、技量向上にも努めています。

また、他の部活動や業務との兼ね合いで週2回1時間半程度と練習時間も限られているため、夏は暑さと、冬は寒さと闘いながら日々練習に精を出しています。

その甲斐もあってか、部員たちの技術も目に見えて向上しており、昨年3月に出場して予選敗退した「那覇バドミントン大会」の雪辱を果たせると自負しています。

「海自那覇」のチーム名で各バドミントン大会に出場していますので、「でいご」をご覧の皆様！会場でお会いする機会がありましたら、お声掛けいただけますと幸いです。



那覇航空基地自衛官ファミリー

このコーナーでは、海上自衛隊那覇航空基地内で勤務する「夫婦」「親子」「兄弟・姉妹」にスポットをあて「自衛官ファミリーの絆」を紹介します。

第11回目は、第5航空群司令部で勤務する金城准尉(父)と第5整備補給隊で勤務する金城3曹(子)の金城ファミリーについて紹介します。

質問事項

- ① 職種(仕事内容)
- ② 海上自衛隊に入隊した動機
- ③ 同じ基地内で勤務しての感想
- ④ お互い一言！
(感謝や要望等)



父 金城ファミリー 息子 第5整備補給隊

父
第5航空群司令部

金城ファミリー

息子
第5整備補給隊



① 【父】補給員…司令部の補給員として勤務し、司令部の部隊運用業務を適切に運営させるため、装備品等の維持及び需品等の調達、保管及び返納業務を行っています。

【息子】航空機体整備員…第5整備補給隊の航空機体整備員として勤務し、P-3C航空機の安全・確実な運航を支えるための点検及び整備作業を行っています。

② 【父】高校卒業間近に学校から帰宅したら、自衛隊沖縄地方連絡本部(現自衛隊沖縄地方協力本部)の募集員(海上自衛官)と父親が自衛隊の話して意気投合しており、父親から「自衛隊に入隊しなさい」と有無も言わずに入隊させたことがきっかけです。(笑)

私自身、全く自衛隊の知識もなく興味もなかったのですが、今では楽しく勤務させていただき、この組織と父親には感謝しています。

③ 【息子】私は、海上保安官や警察官になりたいと思っていましたが、父が「自衛隊も楽しいよ」と声をかけてくれたことがきっかけです。

自衛隊は厳しい印象でしたが、とてもやりがいがあり人脈も増え、色々な経験ができて最高の仕事だと思っています。

④ 【父】息子が、汗を流して勤務している姿を見て同じ海上自衛隊で勤務していることが、幸せとだと感じています。

【息子】父が同じ基地に勤務しているので、私にとっては非常に心強いです。

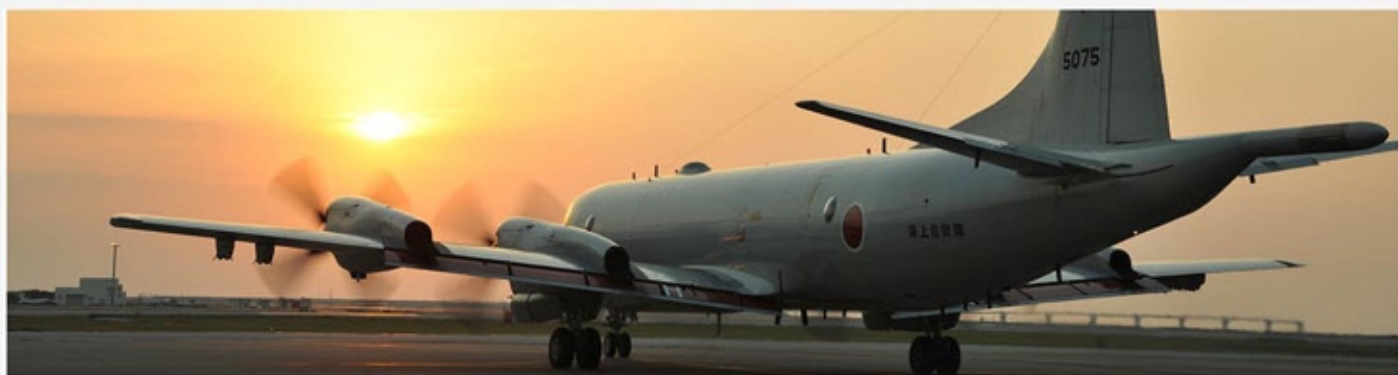
何か困ったことや悩んでいる時にもすぐに相談できるので助かっています。

父はとても優しく仕事熱心なので、私も見習って一生懸命仕事に励んでいきたいと思っています。

⑤ 【父から息子へ】「安全第一」でチバリヨ(沖縄の方言で「がんばれよ」の意味)

【息子から父へ】定年まであと少しですが何事もなく自衛隊人生を送ってほしいです。

【父】「いっしょ、ありがとね」。



第5航空隊 「初機長フライト」 紹介

海上自衛隊第5航空隊において「初機長フライト」を終えたP-3C哨戒機の搭乗員に感想を伺いましたのでご紹介します。

「初機長フライト」とは、操縦士・戦術航空士が、初めて機長として航空機に搭乗して運航するフライトのことです。初機長フライトに至るまでには多くの訓練を要し、

各段階の検定をクリアし、機長として飛行作業に臨むに相応しい知識・技能を備えていると認められなければなりません。そのため、操縦士・戦術航空士にとって「初機長フライト」は、搭乗員人生の中で一つの大きな節目とも言えるフライトになります。

第5航空隊第52飛行隊所属
森永1尉



令和7年7月1日
初機長フライト

初機長フライトは天候にも恵まれ、自ら操縦するP-3Cで美しい沖縄の空を飛行する感動とともに、これから国防の最前線で機長として各種任務に従事する覚悟を新たにしました。

これまでの任務飛行や訓練飛行における諸先輩方からの指導や飛行作業を共にした各クルーのサポートもあり、落ち着いて初機長フライトに臨むことができました。那覇着陸後は司令をはじめ、飛行隊の先輩・後輩、また家族にも温かく迎えていただき、無事に初機長フライトを終えた安堵と喜びを改めて実感することができました。

今後は第5航空隊ひいては我が国の一戦力となれるよう、さらなる術科能力の向上を図るとともに、先輩達のような頼られる搭乗員を目指していきたいと思えます。

また、航空機を整備し、我々搭乗員が十分に訓練を実施できる環境を整えてくれる整備員の方々への感謝を忘れず、日々研鑽を続けていく所存です。

第5航空隊第52飛行隊所属
諏訪間1尉



令和7年7月3日
初機長フライト

初機長フライトを終えて大勢の隊員に支えられてフライトしていると実感しました。特に、フォローアップを発揮したクルーの支えなしに機長として任務達成はできないと感じました。

次はあらゆる任務に対応できる機長となるための努力を惜しまず勤務していきます。

また、那覇での勤務も残り短いため、これまで多くの支援をいただいた分、機長としてリーダーシップを発揮して国防に貢献できるよう精進します。



第5航空隊第51飛行隊所属
平尾3尉



令和7年7月16日
初機長フライト

第70期航空学生として海上自衛隊に入隊してから約8年、先日無事に初機長フライト終えることができました。今までの教育訓練、飛行作業等に携わり、指導してくれた先輩や支えてくれた同僚、航空機整備等訓練環境を整えてくれた全隊員に改めて感謝いたします。

飛行中は、自らの一挙手一投足が航空機の運航につながることに不安と興奮で記憶が曖昧な点もありますが、無事に自らの手で着陸した瞬間は、何事にも代えがたい感覚で今でも鮮明に覚えていきます。

また、機長としてクルーを無事に連れて帰ることの責任の重大さを改めて認識することができました。

幹部搭乗員としての道はまだ始まったばかりで前途多難ですが、今後も国防の最前線で活躍できる機長を目指し、日々の飛行作業に臨む所存です。

第5航空隊第51飛行隊所属

村山1尉

令和7年8月26日
初機長フライト

沖縄、那覇第5航空隊に着隊し約2年が経ち、様々な訓練フライトや任務フライトを経験してきました。しかし、本日のフライトとは今まで経験してきたフライトとは異なり、教えてくれる教官がいないうちで自分自身が機長として航空機、搭乗員の責任を負うフライトとなりました。

フライト時間としては約30分ではありましたが、機長として非常に重い責任を感じることができました。緊張はなかったという嘘になります。必ず帰るという使命感のほうが強くなったことを覚えています。

初機長フライトを終え、無事基地に帰った時は今まで任務・訓練フライトで様々なことを教えてくれた先輩や同僚や、かけつけてくれた妻へ感謝するとともに、これから安全第一に様々なフライトに臨んでいきたいと強く思いました。青く美しい沖縄の海をこれから機長として守っていきます。

第5航空隊第51飛行隊所属

亀井1尉

令和7年8月27日
初機長フライト

沖縄の美しい景色の中、初機長フライトを行えた喜びとともに、機長として一層の責任の重さを感じる日となりました。

今まで行っていた手順や操作が間違っていないか何度も心の中で確認し、より緊張感をもってフライトに臨んだことを覚えています。また那覇に着陸し、司令をはじめ飛行隊の教官や同期、後輩の顔を見た際の安堵感と喜びは、今後の飛行隊人生の中で最も記憶に残るものだと感じています。

引き続き、知識・技能を磨き、国防の最前線で活躍できる精強い搭乗員となれるよう精進していきたいと思っています。

最後に、初機長フライトに至るまで厳しくも温かく指導してくれた教官やクルーの方々、また、遅い時間まで航空機を整備し、存分に訓練ができる環境を整えてくれた整備員等からの多くの支援に対し改めて感謝するとともに、今後も努力を続け、更なる飛躍を目指していく所存です。

海上自衛隊

職種紹介

このコーナーでは、海上自衛隊第5航空群において勤務されている隊員及び職種について紹介します。

初めに海上自衛隊は、主として「海」を行動の場としています。周囲を海に囲まれた我が国にとって、海の安全を守ることは非常に重要であり、日夜、日本周辺海域において、警戒・監視活動等に従事し、日本の安全を守っています。また、災害等が発生した際には、艦艇や航空機を派遣し、捜索、救助、救難物資の輸送等を行っています。

今回紹介する職種のほかにも、艦艇職域や航空職域において、多数の職種があり、全33職種で約50種類の業務が行われています。

その中から今回は、第5航空隊で航空電子整備員(搭乗員)として勤務している隊員を紹介します。

質問事項

1 仕事内容

2 将来の目標

3 これからの将来を決めていく後輩たちへのメッセージ

航空電子整備員(搭乗員)・・・第5航空隊

西鶴3曹

1 「私は海上自衛隊でP-3C哨戒機という航空機に搭乗して、日本周辺の海域の警戒監視を日々行っています。この航空機には様々な技能を持った搭乗員が協力して任務を行っています。」

私の業務内容は航空機に搭載している電子機器の保守整備及び管理です。(機上電子整備員)といえます。

2 「搭乗電子機器をシステムテスト等により正常な状態を維持して決められた時間通りに航空機を離陸させることにやりがいを感じています。」

3 「私は学生時代に進路で悩んでいた時、実際に海上自衛隊の搭乗員の道に進んだ先輩から話を聞く機会を通じて、搭乗員として多くのことを経験してみたいと思い、海上自衛隊に入隊しました。」

搭乗員への道は、大変だと思ふ事もありましたが、同期と助けあい、目標を達成する中で充実感を感じることができました。

様々な進路選択ができる時代ですが、ぜひ海上自衛隊に入隊し一緒に海上自衛隊でしかできない多くの経験をしましょう。」



飛行前点検(空中線点検)



海上自衛隊と一緒に働こう!

沖縄調理師専門学校校外実習支援

那覇航空基地隊 厚生隊給養班長 2等海尉 小西 尚紀



令和7年10月6日から10月14日までの間、沖縄地方協力本部からの依頼により、沖縄調理師専門学校2年生4名に対する校外実習支援を行いました。

沖縄調理師専門学校では、「キャリア」（社会人としての基礎力などの能力の獲得、自己の適正や指向性の理解及び仕事の理解）、「教養教育」（学ぶことと働くことの関係性の理解）、「専門教育」（専門分野の業務を実施すること、課題の明確化、目標設定、学習意欲の向上につなげる）の3点を目的として、2年生を対象に校外実習を行っているそうです。

今回の支援は、集団給食において重要とされる衛生管理（個人・食品・給食機器・施設）や調理作業（切込み・味付け・盛付け・配食）を体験してもらい、学校側の目的である3点の理解を深めていただくとともに、将来海上自衛隊給養員として働くことも想像してもらえようという実習支援を行いました。

実習生4名は、初めての集団給食調理を経験し、調理作業量の多さ、給食器材等の重さを体感することで、集団給食調理の大変さを感じている様子が伺われました。

実習生の中にはへとへとに疲れて昼休みを寝て過ごしていた学生もいるほどでした。

金曜日には、海上自衛隊お馴染みのカレーを実習生4人にも調理してもらい、お昼に隊員と談笑しながら美味しく食べていました。

談笑では、艦艇勤務経験がある隊員から外国寄港地での艦上レセプションや昼食会及び外出時に広めた見聞等の話を聞くなど、海上自衛隊ならではの経験を伝えることができ、興味深く聞いてくれる実習生の姿に我々も嬉しく思いました。

実習の最後に実施したアンケートでは「大量調理が大変だった」、「学校にない器材があつて勉強になった」、「給養班員が親切に教えてくれた」といった意見がありました。

今後も海上自衛隊について理解と協力を得るためにも、可能な限り学生等の校外実習を受け入れていきたいと思ひます。



作ったカレーを頬張る生徒と給養員

うちなんちゅ（沖縄出身）隊員紹介

第5航空群司令部 與那覇1尉（宮古島市出身）



私は、平成2年3月第282期練習員として、桜満開の佐世保教育隊に入隊しました。

早いものであれから約35年が経ちましたが、入隊式がついにこの間の出来事だったかのように感じます。

入隊以来、陸上、艦艇、航空部隊、学校教官と様々な配置を経て、現在は第5航空群司令部にて気象班長の職に就いており、主に航空気象について、幕僚等との情報共有、搭乗員への飛行前ブリーフィングの実施等、部隊運用に携わる司令部の一員として勤務しています。

これまで数々の目標を持って日々精進してきましたが、厳しいながらも親身ある上司に出会い、苦楽を共にした同僚、後輩に支えられ、無事今日を迎えられています。

着任から1年4か月が経過し、若い先短い老兵となったものの感謝の気持ち忘れられることなく、まだまだこれからという気概をもって勤務し、一人でも多くの後進の成長を見守っていききたいと思ひます。



「気象ブリーフィングを行う與那覇1尉」



自衛隊協力者等への感謝状贈呈式

防衛大臣からの感謝状贈呈

令和7年10月12日、沖縄二火会後
関副会長の「沖縄県における防衛基盤
の育成」の功績に対し、防衛大臣（中
谷元）から感謝状が贈呈されました。



沖縄二火会 後関副会長

海上幕僚長からの感謝状贈呈式

令和7年11月14日、沖縄海友会入松田副会長、
沖縄二火会久保田理事、沖縄県防衛協会山縣常任
理事（後日第5航空群司令からの代理贈呈）の「沖
縄県における防衛基盤の育成」の功績に対し、海
上幕僚長（海将齋藤聡）から感謝状が贈呈されま
した。



沖縄海友会 入松田副会長



沖縄二火会 久保田理事



沖縄県防衛協会 山縣常任理事
（第5航空群司令による代理贈呈）

第5航空群司令からの感謝状贈呈式

令和7年11月5日、沖縄海友会新里理事、沖縄二火会渡副
会長及び沖縄県防衛協会山内理事の「沖縄県における防衛基
盤の育成」への多大な功績、沖縄開発株式会社（代表取締役
社長屋宜氏）の「就職支援」への多大な貢献に対し、第5航
空群司令（海将補平木拓宏）から感謝状が贈呈されました。



沖縄海友会 新里理事



沖縄二火会 渡副会長



沖縄県防衛協会 山内理事



沖縄開発株式会社 屋宜氏

令和7年8月20日から令和7年8月22日の3日間、陸海空「三自衛隊統一募集広報パワーアドベンチャー」が行われました。

パワーアドベンチャーは、沖縄県内の学生たちに対し、在沖縄の自衛隊について説明することにより、募集対象者に職業としての自衛隊への理解を促進することを目的に行われているものです。

第5航空群では、海上自衛隊の概要説明、航空機見学、隊員との懇談が実施されました。

概要説明では、海上自衛隊の役割、航空機の運用や基地業務に関することなどが説明され、日々の任務を遂行するために、



隊員との懇談



P-3C 航空機見学

多くの隊員の支援が必要であることなど、学生たちも海上自衛隊の活動について理解を深めていました。

航空機見学では、実際に飛行機や搭載装備品を間近で見て、迫力が十分に伝わっていたようです。

隊員との懇談では、学生から多くの質問があり、隊員は自分の入隊の動機や、今の職場環境の様子や体験など、色々な質問の内容に丁寧に話をして、学生たちにも大変好評でした。

今回の部隊見学が、参加した学生たちにとって将来の就職進路の参考になり、海上自衛隊を進路のひとつとして選択してくれることを願います。

三自衛隊統一募集広報

那覇大綱挽まつりボランティア

那覇航空基地上曹会
会長 大城1曹

令和7年10月12日、那覇航空基地上曹会は、海上自衛隊の有志隊員28名で那覇大綱挽保存会からの依頼を受け「第55回那覇大綱挽まつり」の支援員としてボランティア活動を行いました。(沖縄に所在する陸海空自衛隊及び米軍との共同ボランティア)

那覇大綱挽とは、琉球王国時代の那覇四町綱の伝統を引き継ぐ長い歴史を有する沖縄最大の伝統文化催事で、その発祥は西暦1450年頃とされています。

明治以降は、お祝い綱として幾度も開催されていましたが、昭和10年を最後に一度途絶えてしまいました。

その後、しばらく開催されていませんでしたが、那覇市制50周年の記念事業として昭和46年に復活し現在に至っています。



今年も多く地元住民や観光客が参加し、1995年ギネスブックによって「世界一のわら綱」と認定された大綱を東西に分かれて引き合う様子は迫力があり圧巻でした。

当日は、台風接近による雨天の予想でしたが、雨も上がり予定どおり開催されました。

私たちは、セーフティーボランティアとして大綱周辺の警戒を実施しつつ、「平和安寧」、「家内安全」、「無病息災」などの幸福を願って大綱を挽いた後に参加者が持ち帰るための大綱の切り分け等の支援を行いました。

那覇大綱挽保存会からの依頼を受け、今年初めて参加しましたが、今後も沖縄の伝統行事や各種イベントへ積極的に参加し、地域の活性化に貢献するとともに、隊員のボランティア精神の高揚に努めていきたいと思っています。



基地・防衛モニター部隊等見学

令和7年9月19日に「基地・防衛モニター」行事として、海上自衛隊第5整備補給隊及び航空自衛隊那覇基地の部隊見学を行いました。

今回は航空自衛隊那覇基地の基地モニターとの合同で、総勢17名での見学となり、航空自衛隊南西高射群17高隊ではベトリオット各装備が配置されており、眼前で各装備品の説明をうけ、また警戒航空団603飛行隊ではE-2C(早期警戒機)の見学を行い、見学中に折りたたんだ翼を展開する実働の離陸準備作業状況を見ていただきました。

海上自衛隊第5整備補給隊では整備隊司令による整備補給隊の概要説明から始まり、機側整備隊、電子整備隊、航空機整備隊と各整備隊の見学を行いました。見学では、P-3C哨戒機の高所作業、電子部品半田付け体験、トルクレンチを使用しているエンジン内部のねじ締め体験など、実際に身体を動かす体験を取り入れた「体験型」の内容で行いました。



海自5整備隊P-3C高所作業体験



海自5整備隊半田付け作業体験



陸自17高隊ベトリオット見学



空自603飛行隊E-2C見学

AFN360 OkiNawa (在沖米軍ラジオ)へ出演して

第5航空群司令部広報室 今村曹長



私は、在沖米陸軍(第10支援群)からの依頼を受け、令和7年7月31日に米軍キャンプフォスター内AFNブースにてラジオ番組へ出演しました。

AFN360 Okinawaとは、アメリカ合衆国の軍隊放送局であるアメリカ軍放送局(AFN)が沖縄県内で放送しているラジオ局であり、沖縄県内の在日米軍基地やその周辺地域を中心に在日米軍人やその家族、そして地元民に向けた多様な番組を提供しています。

また、英語を話す方々に向けた番組を提供することで、在日米軍と地元民の交流や、沖縄県内での国際交流の促進に貢献しています。

今回は、沖縄に長期間勤務し、在沖米軍や他自衛隊の交流に大きく貢献しているという理由でオフアールが参加しました。

番組は、もちろんすべて英語のトークですが生放送。SDFアールのパーソナリティーとして鍛えた百戦錬磨の私でもいささかの緊張と冷や汗を抑えながらなんとか在沖米軍と海上自衛隊の交流等についての想い等話をしました。

さらに、番組内で「英語の歌も披露して!」とのリクエストもあったのでアカベラで歌も披露しました。

今後も在沖米軍及びその家族並びに地域住民との交流の推進を積極的に行い、沖縄における「大きな輪」を作っていきたいと思っています。



「でいご」に関するご意見、ご感想、寄稿などがございましたら、
沖縄二火会事務局または第5航空群広報室までご連絡ください。

■ 沖縄二火会
事務局 後関 光利
oknikakai@yahoo.co.jp

※「沖縄二火会」WEBサイト
<https://okinawa-nikakai.com>

※「でいご127号」は、令和7年8月から令和7年11月までの行事等を基準に掲載しています。

■ 第5航空群広報室
那覇市当間 252
5aw@inet.msdf.mod.go.jp
☎ 098-857-1191 (内5231)

編集協力委員

首席幕僚	田島	1佐
広報室長	脇山	3佐
群司令部	那覇	1尉
5空	尾平	3尉
5整備隊	山小	1尉
那覇基地	西村	2尉
広報室	今	曹長